

市民活動状況

市内NPO法人数	33 団体
当センター登録団体数	141 団体
当センター登録会員数	6,783人
2月来館者数	2,280人
2月印刷機利用枚数	20,524枚

ひびき



発行枚数 650枚 メール配信 100団体

発行人 指定管理者NPO法人茨城県南生活者ネット 龍ヶ崎市市民活動センター長 田沼信之

龍ヶ崎市市民活動センターは社会貢献活動を行う団体を支援するための施設です。

会議スペース・作業スペース・印刷機・紙折り機・パソコン・多目的室等(1階)や

大会議室・小会議室・パソコン室・和室・工作室(2階)・陶芸室(1階外倉庫隣り)がご利用いただけます。

開館時間 = 午前9時～午後7時(日曜祝日は午後5時まで)2階各室は夜間も(午後10時まで)利用可能です。

休館日 = 月曜日および年末年始、特別に定める日

〒301-0004 龍ヶ崎市馴馬町2445 TEL 0297-63-0030 / FAX 0297-63-0571

E-mail r-suwan@titan.ocn.ne.jp URL http://r-shimin.sakura.ne.jp/

今月のトップニュース

センター長の「目指せ！市民活動日本一」その87

コロナウイルス拡大防止策として3月10日から市民活動センターを臨時休館させていただいています。ご不便をおかけしています。

今月号はNPO法人茨城県南生活者ネットが迎ってきた市民活動センター運営事業についての足跡の一部をダイジェスト版でお届けします。



2012年 協働事業者として選定を受ける。

昨年4月にスタートした市とNPO法人茨城県南生活者ネットの協働事業は 市からのきめ細やかなご指導と利用者からの様々なご支援を頂き、H24度11月の利用者数は過去最高の1,600人/月を突破し、会議室・和室の利用率も8割を超えました。加えて登録団体も64団体、利用団体は100に近づいています。特に学術・文化・芸術又はスポーツ振興活動は著しく増加(全体の43%)

又、利用者からのさまざまな装飾品等の贈呈やご提言をいただき、明るくて気持ちいい室内環境が創れました。貸館の案内に加えて、市民活動センターイベントや登録団体のPRも強化中です。職員全員が一体となり「ご利用ありがとうございます」運動も展開中です。

「市民活動日本一」を掲げて、まずは「龍ヶ崎市市民活動なんでもあり茨城県NO.1」探し求め、龍ヶ崎の市民活動の誇りにしたいと思います。

2014年 協働事業3年目の成果

りゅうがさき市民活動フェアinサプラで光のモールのパネル展示に加えて、フェスタコートでのステージ発表が可能になった。

(演奏、体操、コーラス、踊り等)

年間利用者数は1.3倍に、印刷枚数は1.5倍に増加した。

ロッカー室と倉庫を改造して貸室(多目的室)とした。

館内の作品展示が急増した。(県内NO.1を宣言 約500点)

音楽団体の練習発表の場として「交流演奏会」を開催した。



2016年 事業の多角化 指定管理者

年間来館者数20,500人 登録団体数120団体

「式秀部屋」活動

「絵画教室」「木工教室」「竹工芸教室」「パンフルーツ製作教室」

「親子で米作り体験教室」「親子で星空観察教室」「まいりゅう科学実験教室」

「健康セミナー」「子育てセミナー」「NPO法人設立セミナー」

「助成金申請セミナー」

「相談事業」「おしゃべりサロン」

「市民活動フェア」「フリーマーケット・市民活動応援市」

「小貝川リバーサイドウォーキング」「笑いヨガ大会」

「ピオトップ製作」「野鳥観察講座」「国際交流講座・ブータンの4年間」

「大人の田んぼ塾と協働」「龍ヶ崎の旧跡講座NPO法人龍ヶ崎の価値ある建造物を保存する市民の会と協働」



2017年 ホームページ「市民活動日本一」が全国ランキング1位 他 広報活動強化 事業拡大

- ・広報誌「ひびき」の1日発行。カラー印刷、館内への掲示。持ち帰りコーナー設置
- ・ホームページ／トップページに動画掲載、注目コーナー掲載
- ・ホームページの閲覧回数も約2万回／年
- ・Facebookページ(りゅうがさき市民活動応援し隊)の参加者は175人超 投稿件数も100件／年間超
- ・「シニアボランティア活動／公園の里親のぼさんクラブ開始
- ・歩く歴史講座／龍ヶ崎の価値ある建物を保存する会 開始
NPO法人設立セミナー
- ・「龍ヶ崎機関車協議会」の強化ダンボールによる実物大SLの制作活動
- ・龍ヶ崎グリーンツーリズム活動「NPO法人バイオリフ／塩川代表」



2018年 「井の中の蛙」から広域化

- ・視察調査団(市議会議員、市役所職員、NPO法人代表、センタースタッフ)を結成し「交流サルーン茨城／水戸三の丸」と「ひたちなか市市民交流センター」を見学した。
- ・第一回常磐線沿線交流会を龍ヶ崎で開催した。柏、守谷、つくば、阿見市民活動等センターが参加した。「龍ヶ崎の自慢」も確認でき、さらなる取り組むべき改善テーマも確認できました。
- ・目指せ！市民活動日本一」活動を更に飛躍させるために市議会議員、市役所職員、NP代表にご参加いただき「新しい公共を目指す円卓会議」をスタートした。市民活動団体の情報交換の場が生まれた。

2019年 「V字回復」と守破離

市民活動センターの利用者数は初めて前年度より減少した。原因の究明と対策案の策定に翻弄するとき、元市民生活部長による「地域コミュニティの構築」の講演会を拝聴した。2011年からスタートした地域コミュニティの構築は組織を創り、権限を委譲し、全国に誇れる市民活動を生み出した。そして高齢化、過疎化が進む6年目を迎えたとき、これまで通りのやり方ではうまくいかないと提言していた。

「ボランティアが与えてくれる心の豊かさ」とその旗印「市民活動日本一」がもたらした膨張が、それを支える行政職員とコミュニティーリーダーの「担い手不足」を生じ、業務量に追いつけきれず、やらされ感が拡大してきたのである。市民活動はあくまで「満足と自慢」の追及であり、より楽しく、作業をみんなで分かち合い、程よい加減であっさり、そこそこに満足への転換が求められる時が来たと感じた。

これからはやり方の改革を……つまり、一部を破って一部を離す……高齢者集団の持ち味は何か？ 専門制を一部導入し個人に裁量を付与し、60点満点業務を増やし我々のやり方で仕事していくことにした。幸運にも我々は軌道を回復した。

2020年 今年もよろしくお祈いします。

スタッフ一人当たりの勤務時間を減らし、全員が自己の持ち味を増分に発揮するような環境づくりに取り組みます。運営はタスクフォース型。

仕事を共通業務と専門業務に分解し、専門分野については各自の裁量権を拡大する。挑戦意欲が向上するよう、60点満点主義の業務をさらに増やし、総合力で「日本一」を目指す。利用者は何をお手伝いしたら楽しんでいただけるのだろうか？

スタッフの持ち味をどのように仕事として創れるだろうか？

NPO法人の特徴をどのようにしたら発揮できるのだろうか？

利用者第一、現場第一、スタッフも第一。

今年もよろしくお祈いいたします。



龍ヶ崎短歌会

神宮の靈氣の中を初詣孫の身長母を越えたり

好きな寿司注文すればやつてくるレーンに秀て旅をしながら

木村 宏

篠本 正